

第19回「親心を育む会」会議記録

日時 : 平成21年6月17日(水) 14:10～16:30
場所 : 第三なでしこ 3階 支援センター室
出席数 : 28名

1. 園部代表あいさつ

皆さんこんにちは。今日もよろしくお願ひいたします。本日は大修館書店の方が、書籍についてのお話しをしてくださいます。

その前に、原田先生が立正大学名誉教授になられました(一同拍手)。会よりお祝いのお花を贈りたいと思います。お庭が広いとお聞きしていますので(笑)、アジサイを。植えていただければ、幸いです。おめでとうございました(拍手)。

2. 原田先生より

素敵なお花をありがとうございました。立正大学に着任したばかりのころ、大学には黒田名誉教授室という、とても立派な部屋がありました。名誉教授というのは、こんな部屋が出来るようなすばらしいものなのだと思っていたのですが(笑)、私の場合、肩書きだけのようですので(笑)。でもこの肩書きに負けないように、更に勉強していきたいと思っております。考えなくてはならない仕事、いくつかあるものですから、ぼやっとしていられないようです。これからも、よろしくお願ひいたします。

3. 松居先生より

みなさん、こんにちは。今日の定例会は本の打ち合わせということで、特にテーマがあるわけではないです(笑)。目次案の資料を見て、これだけでも結構しっかり言えているな、と思います。一つ一つの項目に対して、皆さんが言いたいことをしっかり書ければ、いいものになるのではないかと思います。

個人的には、この前自分の1歳半になる子どもが5分間不貞寝をしまして(笑)。かわいいなあ、と思いました。1ヶ月前には、人生で初めて!?とぼける、ということもしましたし。それもまたかわいい。そういう世界に入ってきたなあ、と。人間くさくなってきたなあ。いいなあ(笑)。実は来週、6冊目の本が出版されます。7冊目の本も頼まれているので、その7冊目で、この「不貞寝」と「とぼける」について掘り下げてみたいと思っています(笑)。今日もよろしくお

願います。

4. 大修館書店 編集担当大塚氏より

皆様、はじめまして。大修館書店で編集の仕事をしております、大塚と申します。一方的に出版企画のお手紙を出したにもかかわらず、ご執筆いただけることになって嬉しく思っています。

もっと保育園の中の子どもの様子を親として見てみたい。楽しくオープンに見られるようにするためにも、「一日保育士体験」のような試みが広がるといいな、と思ってここにいます（笑）。日本経済新聞の記事やホームページなどを拝見したのですが、こういった取組みが、今社会に求められているのではないかと感じています。

5. 執筆に当たって

大塚氏；さて、前もって目次案を頂いていたのですが、それを拝見すると、皆さん書きたいことがいっぱいあることがこちらにも伝わってきます。本を作る際は、筋道を立てて、項目立てをしないと雑多なものになってしまいます。特にこういった大人数で書く場合には、きちんと目次を立て、内容構成を整理していただく必要があるかと思えます。一つ提案として、章ごとに目次を作っておいただき、それを合わせて1冊の本としての交通整理をするという方法もあります。

この目次をキチンと作ってから執筆に入られたほうが良いかと思えます。執筆に入るまでにはまだ段階を踏まなくてはならないだろうなと思っています。参考までに、資料を持ってきましたので、ご覧ください。

まずは、執筆要項をご覧ください。まずは[もくじ(案)]。そこにも書いていますが、まず執筆前の目次案設定ですね。ここをきっちりとお作っていただきたいと思えます。次に[執筆者一覧]。これは奥付にも載せなくては行けませんので…。[執筆・編集の基本姿勢]、これは「こういった方向で」といった、書いていく上でのよりどころとなるものですね。一つの目標というか、姿勢というか。旗印。書き始めたからには逃げられない！（笑）というくらい核となるものだと思います。あとは書式等ですので…。「親心を育む会」の事務局の方から、ワープロソフトはWORDに統一するというお話を聞いていますので、まずは行数や文字数といった細かい事は気にせず書いてみるのがいいかと思えます。

園部代表；それでは、書くに当たって、何か質問はありませんか？

A 保育園 I 先生；写真とか載せるのはいいのでしょうか？

大塚氏；実は写真は肖像権や個人情報の問題が複雑で、あまりお勧めできません。写っている全員に許可を取る、場合によっては書面で取らなくてはならなくなりますし…。

T 保育園 M 先生；後姿でもですか？

大塚氏；できれば、そうですね。

原田先生；出版社としては、この本を読む対象者は誰に設定されているのですか？

大塚氏；まずは、保育者。それから子育て中の親、行政などに向けてですね。

原田先生；しかし、それぞれの対象者によって書き方が変わってくるのではないのでしょうか？

大塚氏；「一日保育士体験」を取り入れてみよう、と思ってもらう事が、この取組みが広がっていくために必要だと思いますので、まずは皆さんと同じ保育者が主対象になってくると思います。

I 先生；私個人としては、保護者に感じ取って欲しいと思いますが…。

大塚氏；そういったご意見も含め、皆さんのイメージの統一も必要かもしれませんね。

事務局 高木；自分のイメージとしては、エッセイのような軽い読み物を想定していましたが…。

園部代表；イメージがなくても書くことは出来るのでしょうか？

大塚氏；実際、書き始められてみると、保育士と親に対してというイメージが皆さんの頭の中に出てくるとは思います。

園部代表；章によっても、対象者が変わってきますよね。

K 教室 N 先生；私は、自分の仕事が保育園ではないのですが、まったくの部外者からしても楽しそうな題名だな、と思います。保育園の切実な思いが伝

わってくるような工夫があるといいですね。たくさんの人に読んでもらえるような…。

原田先生；イラストや写真満載という話もでていましたが…。

大塚氏；確かに、今活字離れが言われています。写真・イラスト・図などを多用するほうがいろんな人に、本を手にとってもらえる可能性はあります。ふわっとした感じではなく、もっとしっかりしたメッセージを伝えたいとお考えならば、専門書に近いようなものも考えられますし…。こういったことも皆さんでご検討頂ければ、と思います。内容的には読みやすい軽いもののほうが動きやすいですけど。

園部代表；先ほど大修館書店さんから配られた資料の中にある「執筆の基本姿勢」を拝見しても、私達が言いたい事のエッセンスを汲んでくれているなあ、と感じました。

松居先生；「書く」ということは、表現の仕方だと思います。絵画もそうじゃないですか、油絵もあれば、水彩画もある。音楽で言えば序曲から始まるものもあれば、そうでないものもあるみたいな。要するに、「書きたい」エッセンスをどうやって見つけて、どう組み合わせっていくか、というところでしょう。

園部代表；それでは、これから先日の書籍作業部会で決めた章ごとのグループに分かれて、話をしてもらいたいと思います。具体的には、それぞれの章で、その中の目次案を考えるといった形で。よろしいでしょうか？ではお願いします。

(ここから、皆さんそれぞれグループになって、話し合いが始まりました。どのグループも話が弾み、とても活気ある雰囲気…)

6. 園部代表より

それでは、時間となりましたので、きょうはこの辺にしたいと思います。今日話し合った事を、まとめていただいて、それぞれ事務局までご報告ください。よろしく願いいたします。

次回予定

平成21年7月14日(火) 14:00～

第三なでしこ保育園 3階 子育て支援センター室
以上